

第10回 猫の癒し効果

【今回取り上げる論文】

今野洋子・尾形良子（2008）

「大学祭における「猫カフェ」の効果 —「猫カフェ」体験型のAAE（動物介在教育）が来場者に及ぼす影響—

北翔学園北方圏学術情報センター年報

●猫好きによる猫カフェ論文！

猫。

「この世でどうネコに接するかが、天国でのステータスを決める。」

——ロバート・A・ハインライン

「ネコの愛より偉大なギフトがあろうか。」

——チャールズ・ディケンズ

「ネコは絶対的な正直さを持っている。」

——アーネスト・ヘミングウェイ

古今東西、例を挙げればキリがない。ムハンマドから夏目漱石まで、猫好きの偉人は数知れない。

猫は、この地球のヒエラルキーの頂点。人間が「面倒をみさせてもらっている」存在である。犬好きの人たちとちがって、猫を愛する人たちは、どこかこうしたDMなところがある。

なにを隠そう、私も猫を飼わせてもらっているのだが、ホント、客観的にみて、うちの猫はいままで見てきたどの猫と比較しても、たぶん宇宙一かわいい。猫好きはみんなこういうことを言う。

今回ご紹介する論文は、そんな猫の、リラクゼーション効果について研究したものである。

「犬は番犬みたいに役に立っているけど、猫はなんの役にも立っていない！」という人、多いのではないでしょうか。

私から言わせれば、役に立たないのに飼わずにはいられないからこそ猫は偉大なのだと思うのですが、そういった人たちのために、実は猫も人の役に立ってるんだぞ、リラックスできるんだぞ、ということを実証した研究である。

これは私の推測だが、おそらく、この論文を書いた今野先生、尾形先生も、ただ単に猫

が好きだったのではないかと思います！

●調査空間「猫カフェ」の実態

タイトルにもあるとおり、この論文は、大学の学園祭で、「猫カフェ」を実施して、その来場者にアンケートをとり、猫カフェでの体験が人間にどのような効果を及ぼしたのか、ということ調査した研究である。

来場者は、男性 30 名、女性 84 名の計 114 名。平均年齢 21 歳。このデータだけを見ると、女性に会いたいなら猫カフェへ行こう、と言いたくなってくるのであるが、これを読んでいる読者諸兄は、「猫カフェ」なるところに行ったことがあるだろうか？

この学園祭でやった「猫カフェ」はどういう空間かというと、

「ござを敷いて座布団を配置したスペースと、ソファやイスに座るスペースにわけ、入り口でスリッパに履き替えて入り、くつろぎながら猫と触れ合うことができる。猫用ベッドや猫ツリー、猫のおもちゃを部屋のなかにおいた。

隣の部屋で、飲み物や食べ物を購入し、それらを持って猫のいる部屋に入り、自由に猫とのふれあいや遊びを楽しめるよう、また猫の DVD 鑑賞ができるようにした」

どうだろう、この至れり尽くせりな感じ。猫の DVD まであって、見取り図をよく見ると、壁には猫の写真まで飾ってある。まさに猫づくし！

だが、猫アレルギーの方にとってはまさに地獄のような場所であろう。猫が嫌いな人にとっては、「猫さえいなければ最高ののに」と思うような場所かもしれない。

ここではそんな猫嫌いの人たちにも配慮して、「猫」＝「かわいい女の子がいる場所」、あるいは「超イケメンがいる場所」と変換していただきたい。要するに、キャバクラとか、ホストクラブみたいなものをイメージしていただきたい。だいたいそれと一緒にある。壁にはアイドルっぽい女の子（あるいはイケメン）の写真が飾ってあり、テレビ画面には女の子（あるいはイケメン）のかわいさを 360 度味わえる映像が流れており、あなたはまるで我が家にいるような空間で、彼らと飲食をともにできるのである。最高ですよ？ 猫が苦手な方は、そういったわけで、これ以降「猫」を「女」あるいは「男」に置き換えてお読みください。

さて、この猫キャバ、もとい、猫カフェには、調査資料を読むと 4 匹の猫がいる模様。どういう猫かというのも、写真入りで、「猫カフェ」の猫たち一覧という表にまとめられておりました。

名前前は、「ピアノちゃん」「ちこちゃん」「びびはちゃん」「ここっちゃん」の 4 匹。19 歳から 1 歳まで取り揃えております。小さい子から熟年まで、「うちにはいい子いませ

ー！」と叫びたくなってしまう感じある。

で、表をよく見ると、「獲得済みの技能」という項目が！ 「獲得済みの技能」!? なんだろう、このロマンを打ち砕く言葉は……！

おそろおそろ、4匹とも「獲得してる技能」を読んでもみると、

- ・おもちゃなどで一緒に遊べること
- ・ひざの上に抱かれること
- ・人になでられること

これ全部技能だったのかー！ 修行して身につけるものだったのかー！ 猫の手の平の上で踊らされている人間！ しかし、ここで傷ついてはいけない。あくまでこのカフェにいるのは、「プロ」の猫さんなのだ。そんじょそこらの素人猫とは人を楽しませる技のキレが違うのである。むしろ、そこをわかった上でも、猫さんたちと一時の享楽と幻想が味わえる、それが猫カフェなのである！

●意外!? プロの猫さんたちの効果

さあ、気になる結果です。まず「猫とどのようにふれあったか」。複数回答可。

うわー、ドキドキしますね。何度も言いますが、猫が苦手な方は、猫を「美女」あるいは「イケメン」と変換して想像してください。

1位「触った」 75.5%!

→おさわりですね！ ほとんどの猫がおさわりOKだったなんて！ 良心的なカフェである。

2位「見た」68.2%!

→見ているだけで、幸せなんだ、ってやつですね！ 手を出せないくらい好きな気持ち、わかります。

3位「一緒に遊んだ」20.0%!

→たぶん、同僚的な感じですね 5人に1人です。ここまでいくとかなりの手練です。

4位「抱っこした」7.3%!

→きゃー、ヤラしい！ あんなかわいいものを初めて会った日に抱っこするなんて！ さすがにここまでの猛者は、10人に1人いないようである。

……と、全部当たり前っちゃ当たり前なんですけども。

抱っこできた勇者は、実は猫を飼っていた経験者が多い、ということもわかったそうです。

猫は、人間のからだの微妙な動きや匂いに敏感で、猫好きの人間を見分けることができ、猫好きの人により近寄る傾向があることが確認されているらしい。なので、抱っこまで進めることができたのは、猫から近寄ったことも大きい原因だ、と分析しています。猫も人を見るんですね！ うーん、なんだか猫も人もおなじようなものだなと思えてきた、ということには気づいてはならない。

そして、続きまして、猫カフェを訪れた人たちの「感想」。せっかくなので、論文に掲載されていたものを、ランキング形式で発表しましょう！

5位「やわらかかった」 46.4%

4位「ふわふわしていた」 52.7%

3位「和んだ」 62.7%

2位「癒された」 65.5%

さあ、堂々一位、73.8%に聴いた、猫カフェの感想はなんでしょう!? 答えは、1位「かわいかった」!!

キター!! そうだったのかあ、やっぱり猫ってかわいかったんだー!! って、全部知ってるよ! という感想。

癒しや心地よさを挙げる回答や、ふれた触感に関する感想、「嬉しかった」「楽しかった」という、喜びに関する感想も多かった、という。ほぼ全ての人が、ポジティブな感想を述べていたのです。そりゃそうである。そもそも猫が苦手な人は猫カフェには来ないであろう。ただ、この調査で重要なのは、「猫が好きかどうか」ではなく、具体的に猫と触れ合っただという点にポジティブな感想をもったのか、という部分に分け入ったところにある。

猫は、ホントにリラクゼーション効果があるようなのである。

ここからなにが言えるのか、論文ではこう書かれています。

「猫カフェという、一時的な出会いの場所であっても、「猫」の存在に目を開かせ、猫への興味を引き出すことができたといえよう」!

一時的な出会い! ワンナイトラブですか! しかし、プロの猫さんたちだからこそできたことなのかもしれない。

●動物が人に与える影響に関する研究

ここからはこの論文の名誉のためにも、少し真面目な話にしよう。

実は、動物が人に与える影響に関しては、海外でも積極的に研究されているジャンルなのである。たとえば、ほかの研究によると、絆が深い犬とはじめて会った犬とでは、与える影響の度合いが違うという結果が得られている。

しかし、この論文は、猫カフェでは、初対面の猫でも、みなさんの心を癒しますよ、ということを実証した。飼い猫に癒されるのは当たり前かもしれないが、はじめて会った猫でも効果を得られるし、あるいは猫の飼育経験がない人でも猫によって癒された結果が得られたのである。

この論文を、こうした動物が人に与える影響を調査した研究のなかに位置づけると、大きな意味をもつのである。

また、毛で覆われた動物に触れることについては、心臓手術後の患者の回復を促進することが確認されたという結果もほかの研究で出ている。動物に触れることが、人の心臓血管系に直接影響を与える、ということらしい。つまり、高い鎮静効果が認められているのである。心だけではなく、体にも効果テキメンということがわかっているのだ。

そして、こうした研究結果をうけ、海外では、教育の現場で、猫や犬に触れさせる授業をしているらしい。そうすると、問題児の数が減少したり、成長期特有のイライラなども激減するという。日本でも震災後に、学校に動物を連れていき、生徒が触れ合うことで、彼らの心のケアをするという活動が報道されている。

実はこの論文の趣旨も、「動物介在教育」という、動物を教育の現場に活かそうという論文だったのであった。

●「猫カフェ」で実証されたこと

こうした高い志を持ち、研究に勤しんだものの、そこで得られた結果が、普通の人には「当たり前じゃないか」と思える論文がたまにある。研究史のなかで、当たり前だけれども、あるいは感覚的にはわかっているけれども、まだ実証されていないことを記録するのは、非常に重要な意味をもつが、そういうマッピングをせずこうした論文にぶちあたると、「おいおい、なにやってんだ!?!」となる。それが珍論文探求の楽しみでもあり、また、読んでその研究の価値に気づかされるのも、もうひとつの楽しみなのである。

味わい深いのは、ほとんどの論文の末尾にある「課題と展望」というところである。この論文では、以下のような反省の言葉が載っていた。

「技能を獲得した猫であったが、「猫カフェ」当日に、積極的に活動できなかった猫もいた」

猫に対するダメだしである。いかにプロの猫さんであっても、人見知りする人はいたという事実がジワジワくる。

でも、「猫カフェ」を訪れたことによって、動物を飼いたい、と思う人が増加した、という結果も得られた。ペット産業は2兆円市場とも言われているほどで、悩みを抱える現代人の多くがペットに頼っているのかもしれないが、飼うのだったらそれなりの責任も発生してくることに注意はしたい。

そして、この論文のまとめは、そういう反省のあとに、なぜか壮大な締めくくりが用意されていた。

『『小さな猫は、自然が作った最高傑作である』とは、イタリアの天才画家レオナルド・ダ・ヴィンチの言葉であるが、大学祭企画「猫カフェ」においても、このことばが真実であることが示されたのではないか』

いやそれは大げさだろう！

ダ・ヴィンチに言ってやりたいです。「うちの猫こそが、最高傑作である」と！